

2021年3月期決算説明資料

株式会社日本動物高度医療センター（東証マザーズ：6039）

2021年5月13日

I 決算の概要

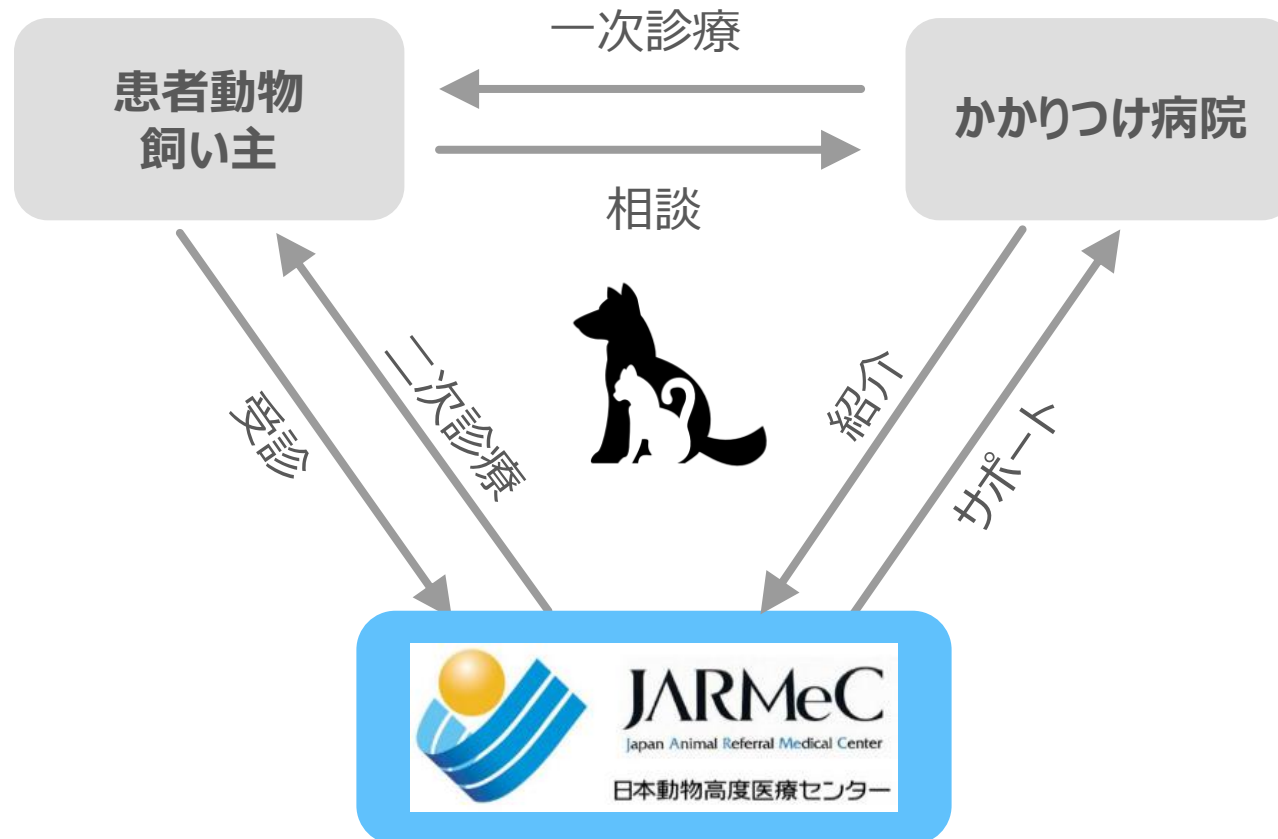
II 市場動向および中期展望



I 決算の概要



当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ コロナ禍において動物病院は「社会生活を維持する上で必要な施設」に分類

2021年3月期 決算概要

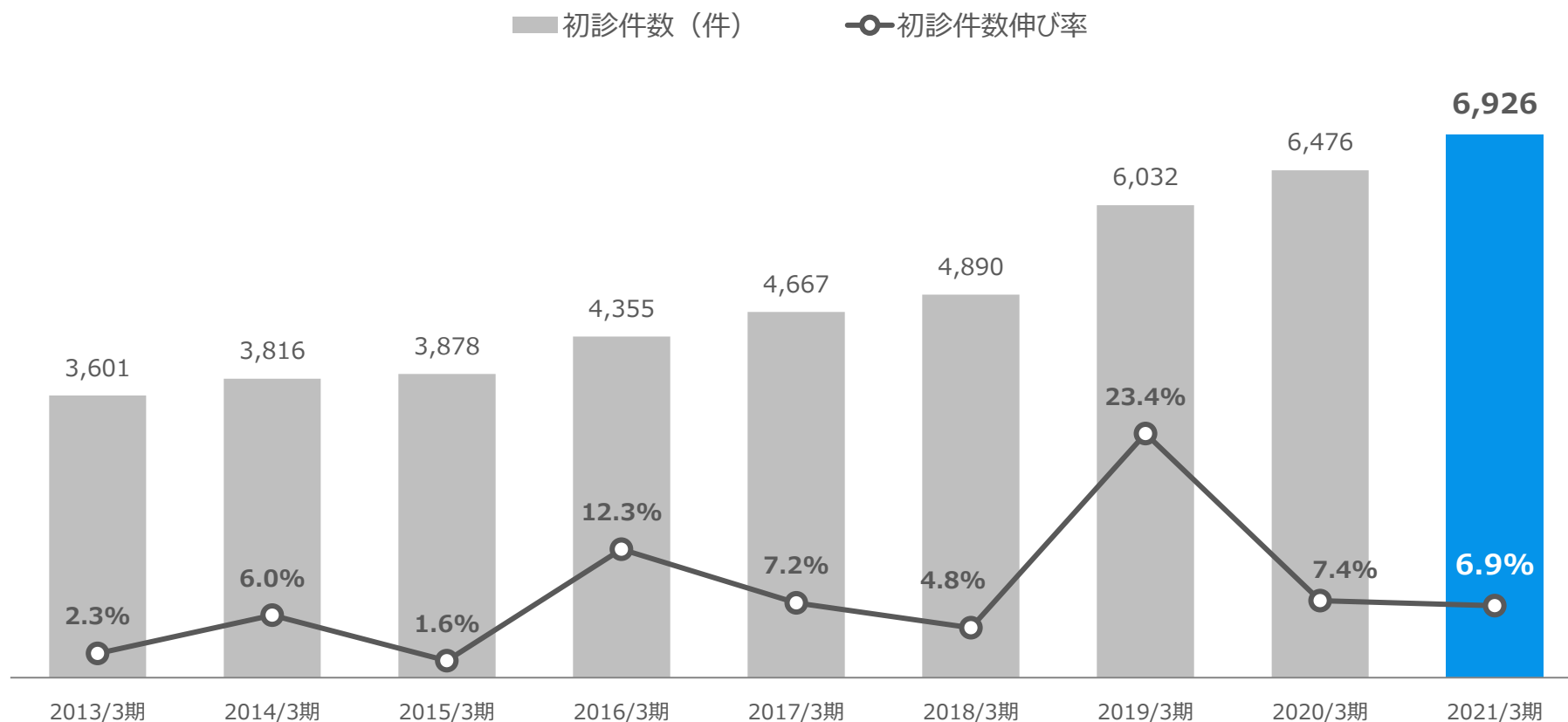
- 初診件数、総診療件数、手術件数の主要KPIが総じて増加したことにより、前期比増収し、計画比上振れ。
- 一方で、事業拡大を目的とした従業員の増加や待遇改善に伴う人件費の増加により、営業利益以下は減益。

(百万円)	2020/3期		2021/3期						
	実績	構成比	計画	実績	構成比	前期比		計画比	
売上高	2,734	100.0%	2,800	2,847	100.0%	+113	+4.2%	+47	+1.7%
営業利益	430	15.8%	435	405	14.2%	▲25	▲5.8%	▲29	▲6.8%
経常利益	450	16.5%	445	410	14.4%	▲40	▲8.9%	▲34	▲7.6%
親会社株式に帰属する 当期純利益	312	11.4%	315	285	10.0%	▲27	▲8.8%	▲29	▲9.5%
1株当たり 当期純利益	128.7円	—	132.2円*	120.7円	—	▲8.0円	▲6.3%	▲11.5円	▲8.7%
初診件数	6,476件	—	6,680件	6,926件	—	+450件	+6.9%	+246件	+3.7%

* 自己株式の取得及び自己株式の処分の影響を考慮済

事業KPI：初診件数（紹介数）の推移

- 伸び率はやや鈍化したものの、初診件数は引続き増加傾向。コロナ禍においても、過去最多件数を更新。

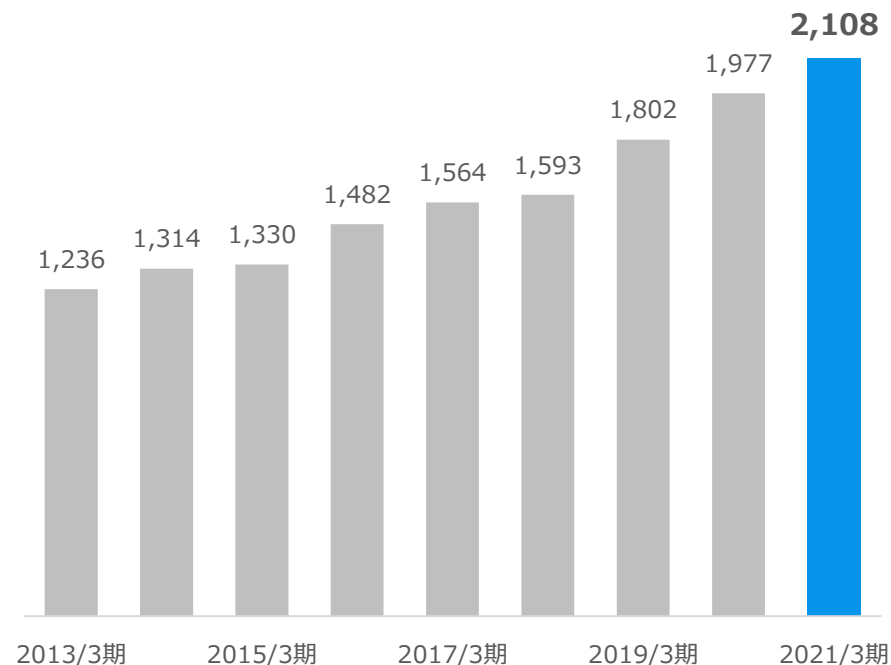
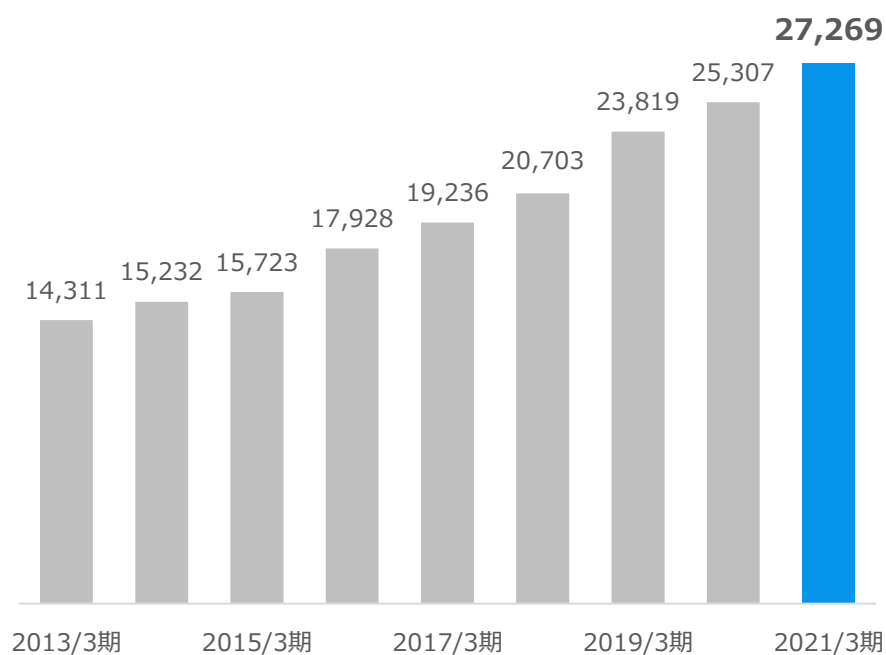


事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数、手術件数においても前期比増加を継続。
- 事業KPIの3項目はいずれも過去最多を更新。

総診療件数の推移

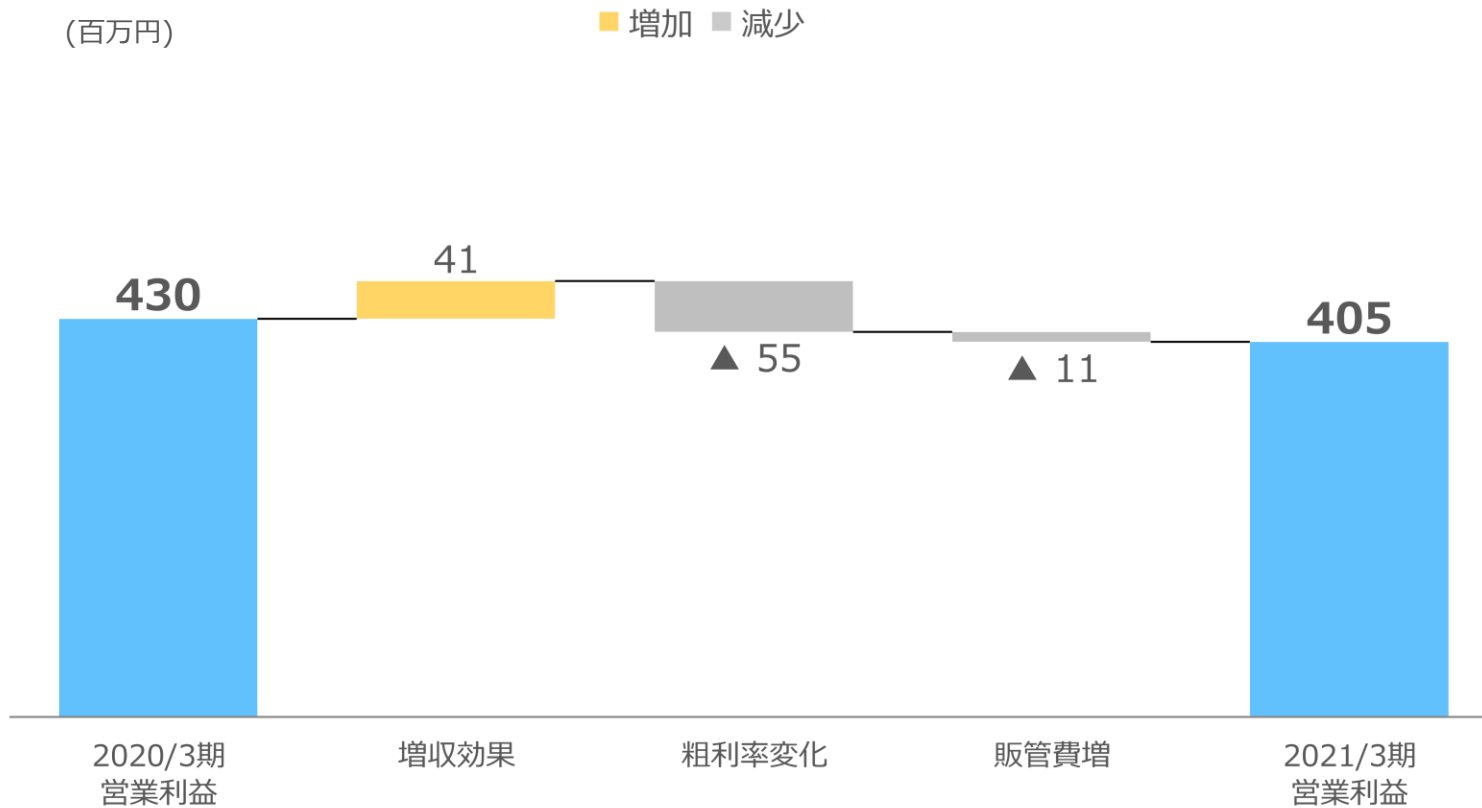
手術件数の推移



注：総診療件数は初診と再診の合計数

営業利益増減要因

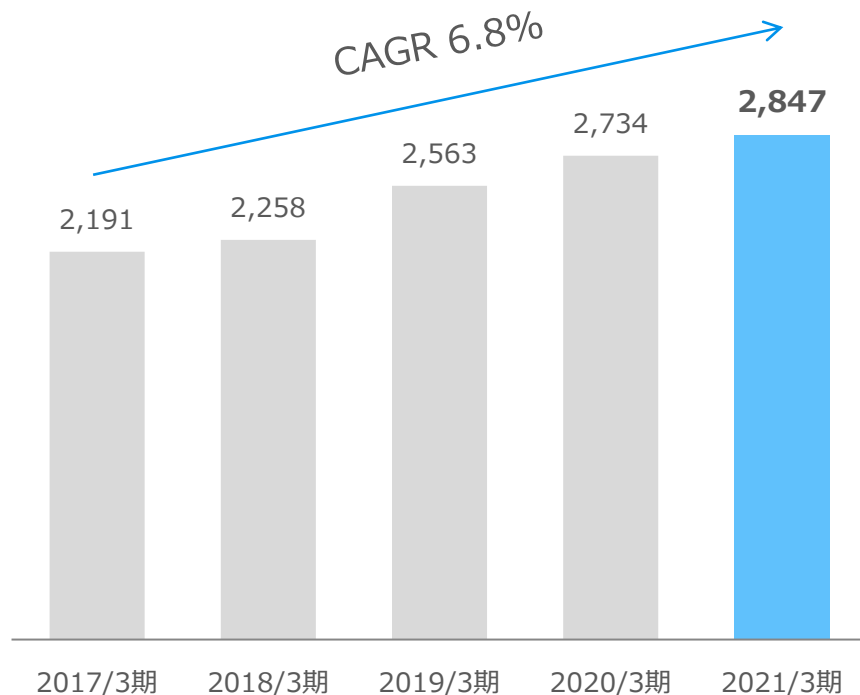
- 事業拡大を見据えた、従業員の増加及び待遇改善に伴う人件費増加等のコスト増加により、前期比増収も、粗利率は低下し、販管費は微増



- 売上高は前期比4.2%増の28億47百万円となり、過去最高売上を更新。
- 営業利益は前期比5.8%減の4億5百万円で着地。

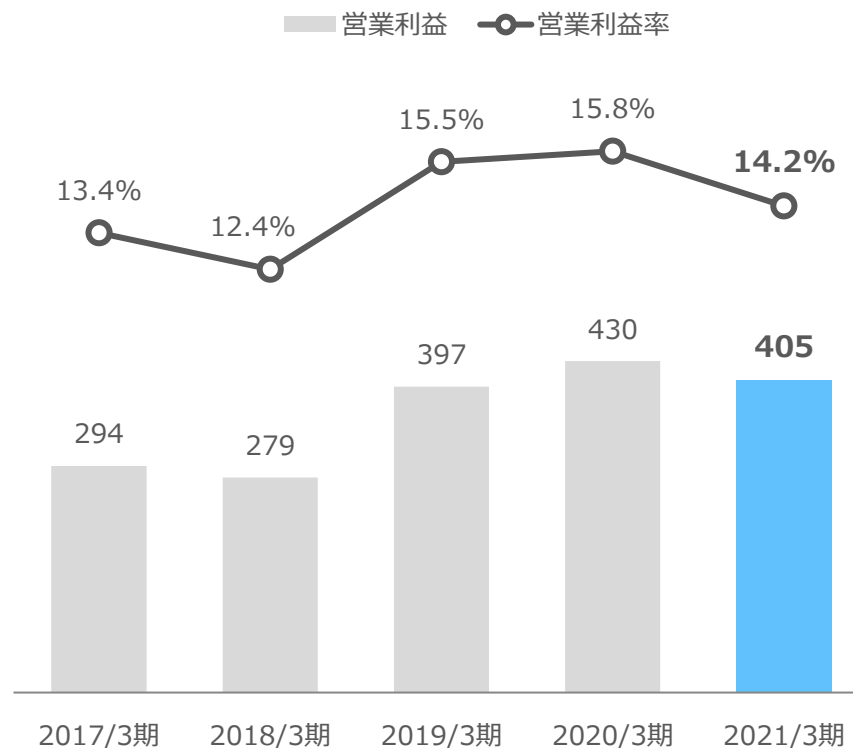
売上高の状況

(百万円)



営業利益・営業利益率の状況

(百万円)



バランスシート状況

- 長期借入金の減少により、有利子負債は減少。有利子負債依存度は52.6%に低下。
- 自己株式を取得したものの、株主資本は2億2百万円増加。自己資本比率は40.0%へ上昇。

(百万円)	2020/3期	2021/3期	前期末比
流動資産	1,464	1,457	▲6
現預金	1,249	1,214	▲34
売掛金	144	148	+4
固定資産	4,464	4,386	▲78
有形固定資産	4,282	4,198	▲83
総資産	5,928	5,844	▲84
負債	3,794	3,507	▲286
有利子負債	3,404	3,074	▲329
純資産（株主資本）	2,133	2,336	+202
自己株式	▲13	▲89	▲75
負債純資産合計	5,928	5,844	▲84

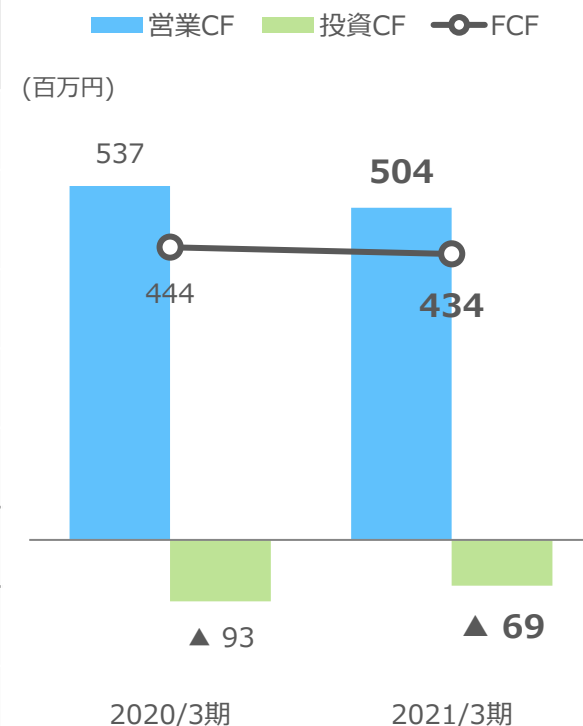
有利子負債依存度は
57.4%から52.6%に低下

自己資本比率は
36.0%から40.0%へ上昇

キャッシュフローの状況

- 当期純利益の減少等により、営業CFは33百万円減少するもプラスを維持
- 通期を通して大型投資はなく、FCFは4億34百万円でプラスを維持

(百万円)	2020/3期	2021/3期	前期比
営業CF	537	504	▲33
税金等調整前 当期純利益	451	411	▲39
減価償却費	217	220	+2
投資CF	▲93	▲69	+23
有形固定資産取得	▲68	▲65	+3
FCF*	444	434	▲9
財務CF	▲445	▲469	▲23
有利子負債の増減	▲430	▲330	+100
自己株式の取得	▲13	▲147	▲134



*FCF (フリー・キャッシュフロー) = 営業CF + 投資CF

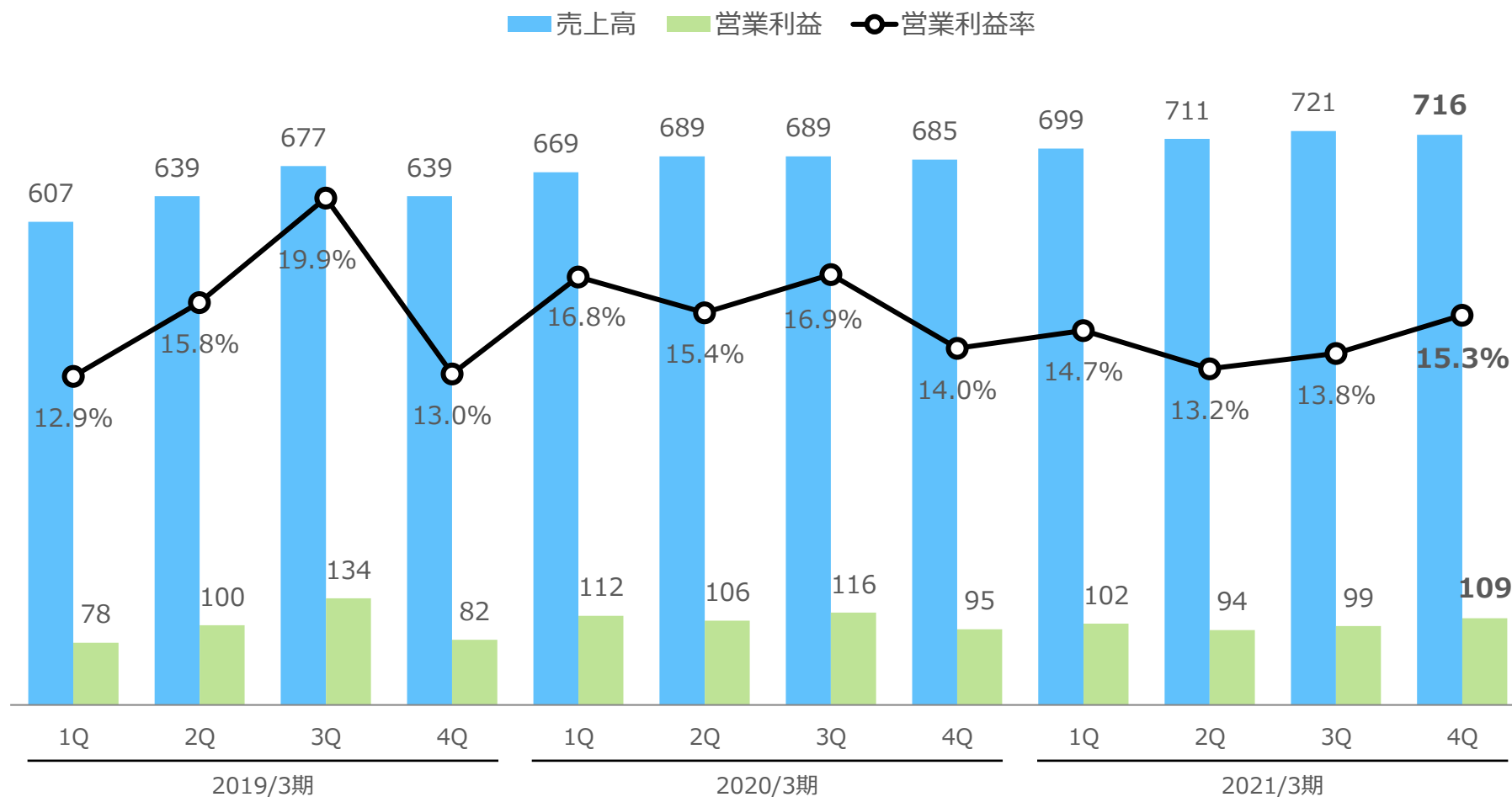
2022年3月期の見通し

- コロナ禍においても既存病院の診療件数増加を見込み、通期見通しについては増収増益を計画
- 引続き一次診療施設とのコミュニケーションを強化を継続することで、初診数の増加を図る

(百万円)	2021/3期		2022/3期			
	実績	構成比	計画	構成比	前期比	
売上高	2,847	100.0%	2,930	100.0%	+82	+2.9%
営業利益	405	14.2%	410	14.0%	+4	+1.1%
経常利益	410	14.4%	420	14.3%	+9	+2.2%
親会社株主帰属 当期純利益	285	10.0%	290	9.9%	+4	+1.7%
初診件数	6,926件	—	7,140件	—	+214件	+3.1%

(ご参考) 四半期決算 業績推移

- 2021/3期は前期比増収減益であるが、患者動物の診療ニーズの高まりに真摯に向き合ったことが奏功し、第4四半期に限れば過去最高売上、最高益を達成。
- 下期以降は営業利益率も着実に上昇



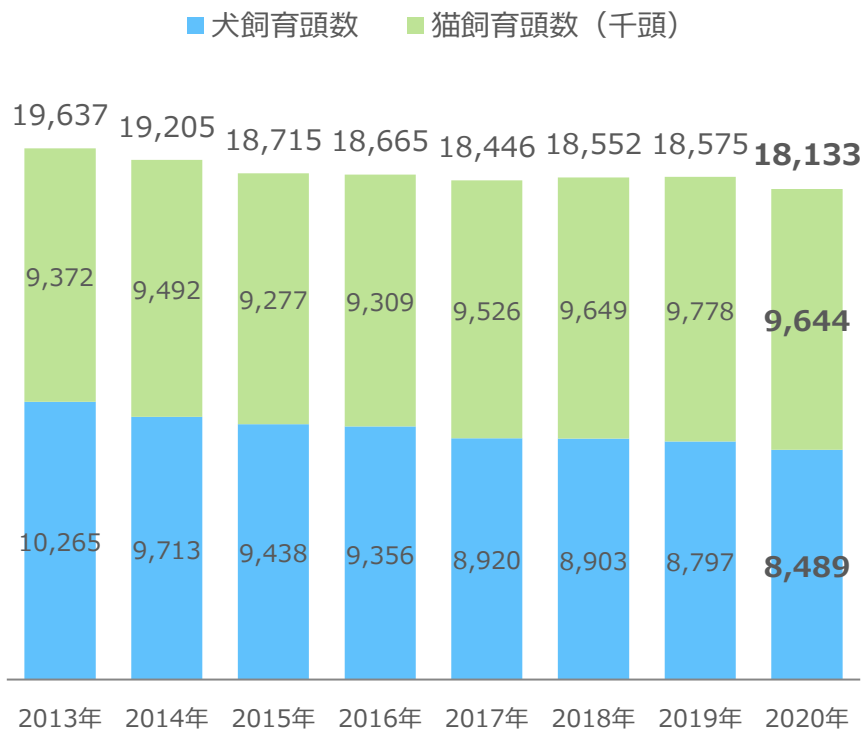
Ⅱ 市場動向および中期展望



- ① 動物医療業界を取り巻く環境
- ② ペット関連総市場規模
- ③ ペット保険の成長性
- ④ 拠点の拡大
- ⑤ 連携病院数の拡大
- ⑥ 人材確保
- ⑦ プラスサイクルを使用した他社との連携

- 犬猫飼育頭数は減少傾向にあるが、空前の猫ブームにより2018年～2019年にかけては増加に転じるも、犬の飼育頭数は減少が続き、全体では再び減少傾向
- 一方で、新規犬猫飼育頭数はここ2年間で増加傾向。2020年には新型コロナの巣籠もりの影響等により、前年比15.2%増加し過去5年間で最多

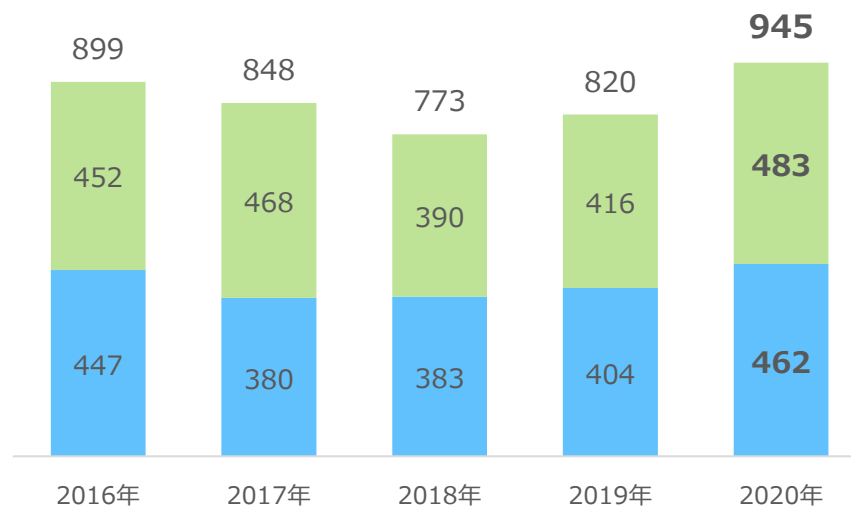
犬猫飼育頭数



新規犬猫飼育頭数*

*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含）から飼い始めた人を新規者とし、新規者に飼われ始めた犬猫の頭数

■ 新規犬飼育頭数 ■ 新規猫飼育頭数（千頭）

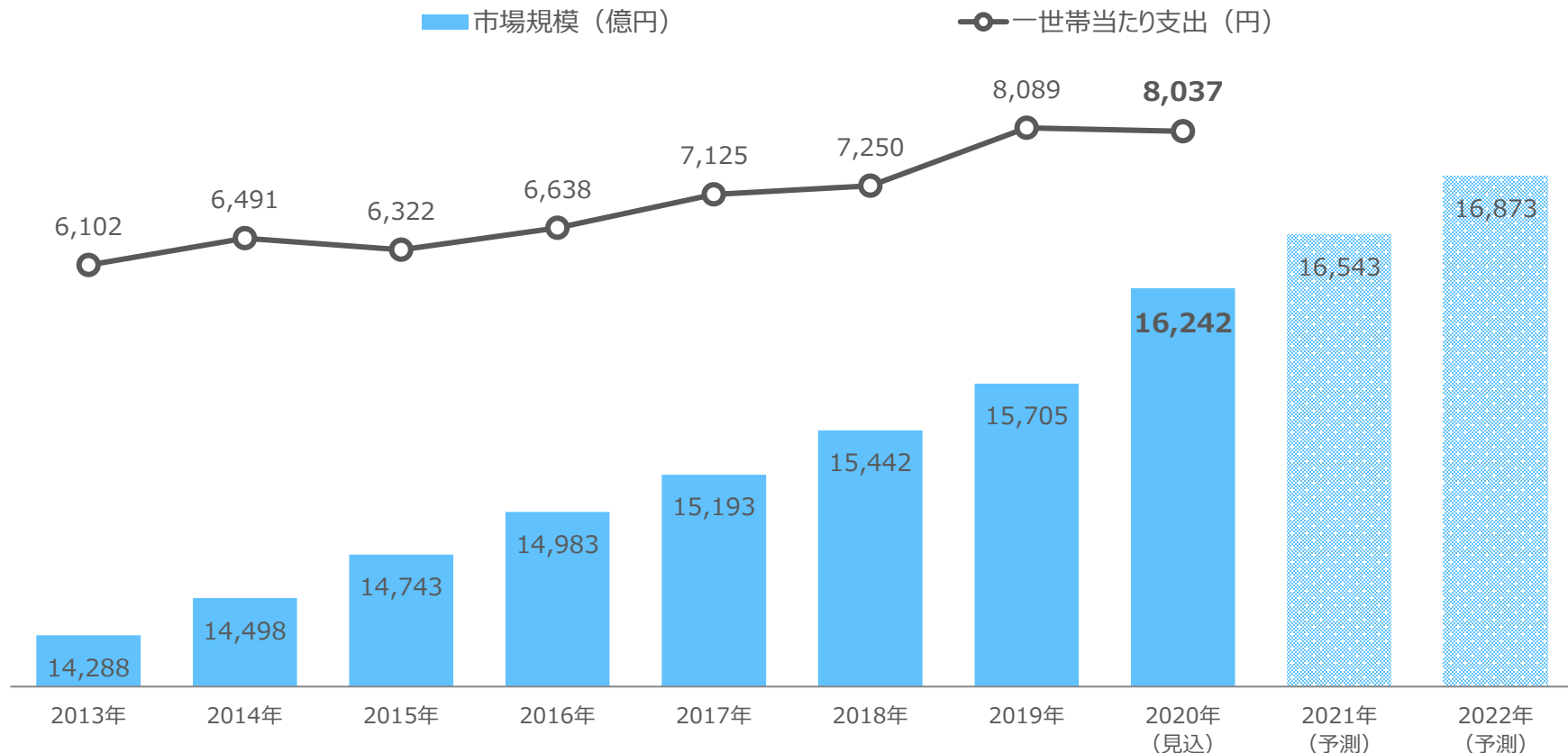


出所：ペットフード協会「令和2年 全国犬猫飼育実態調査」

ペット関連総市場規模

- ペットの家族化により、犬猫の高齢化に伴い疾病が多様化する中で飼い主の動物医療に対する多様化・高度化要請は増加し、世帯当たりの動物病院支出額は増加傾向。
- ペット関連総市場規模は年々拡大。

ペット関連総市場規模と一世帯当たり動物病院支出額

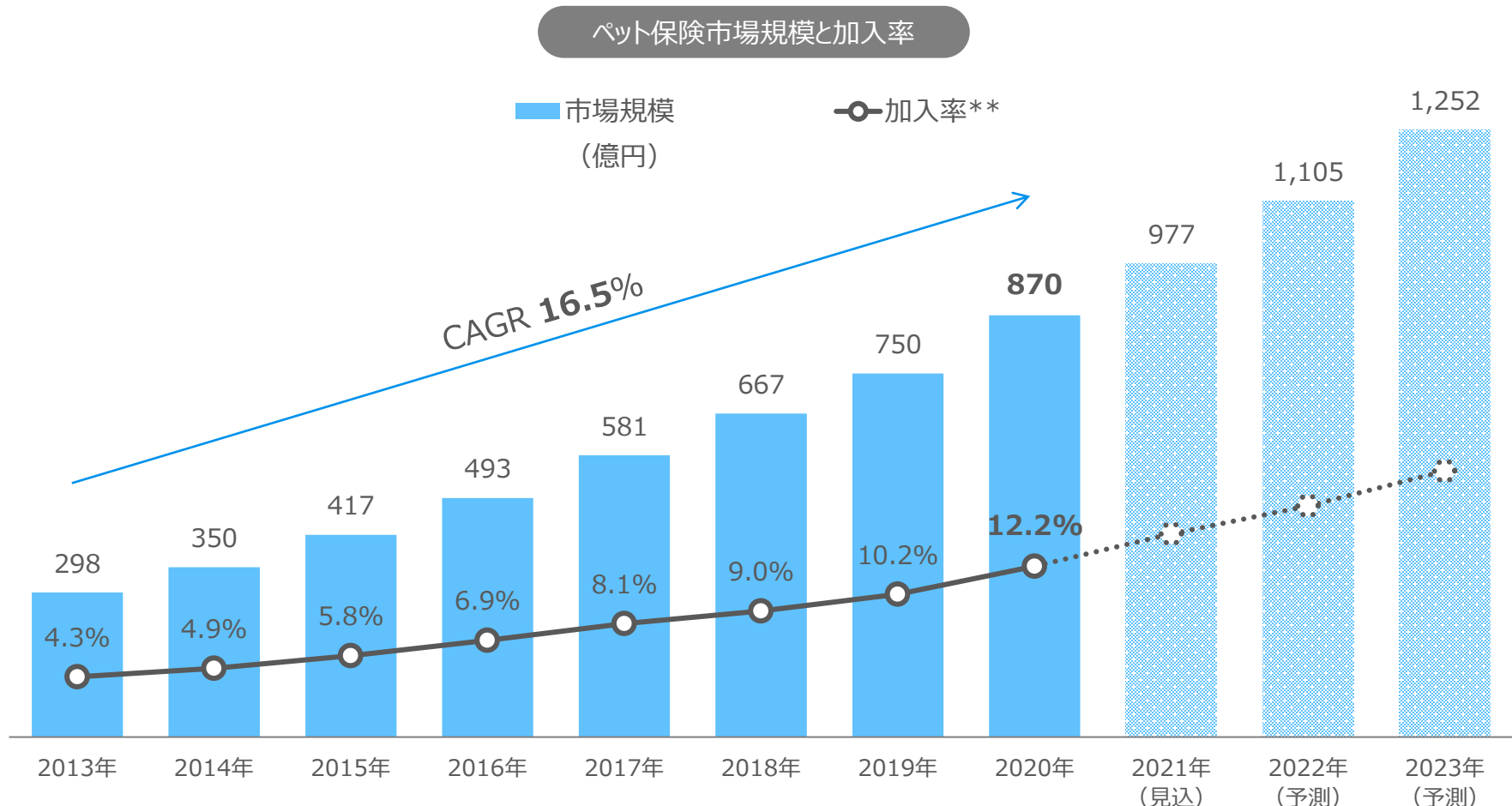


出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」、総務省「家計調査」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

ペット保険の成長性

- ペット保険の市場規模は年平均16.5%拡大し、今後も拡大傾向が続く見通し。
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい。



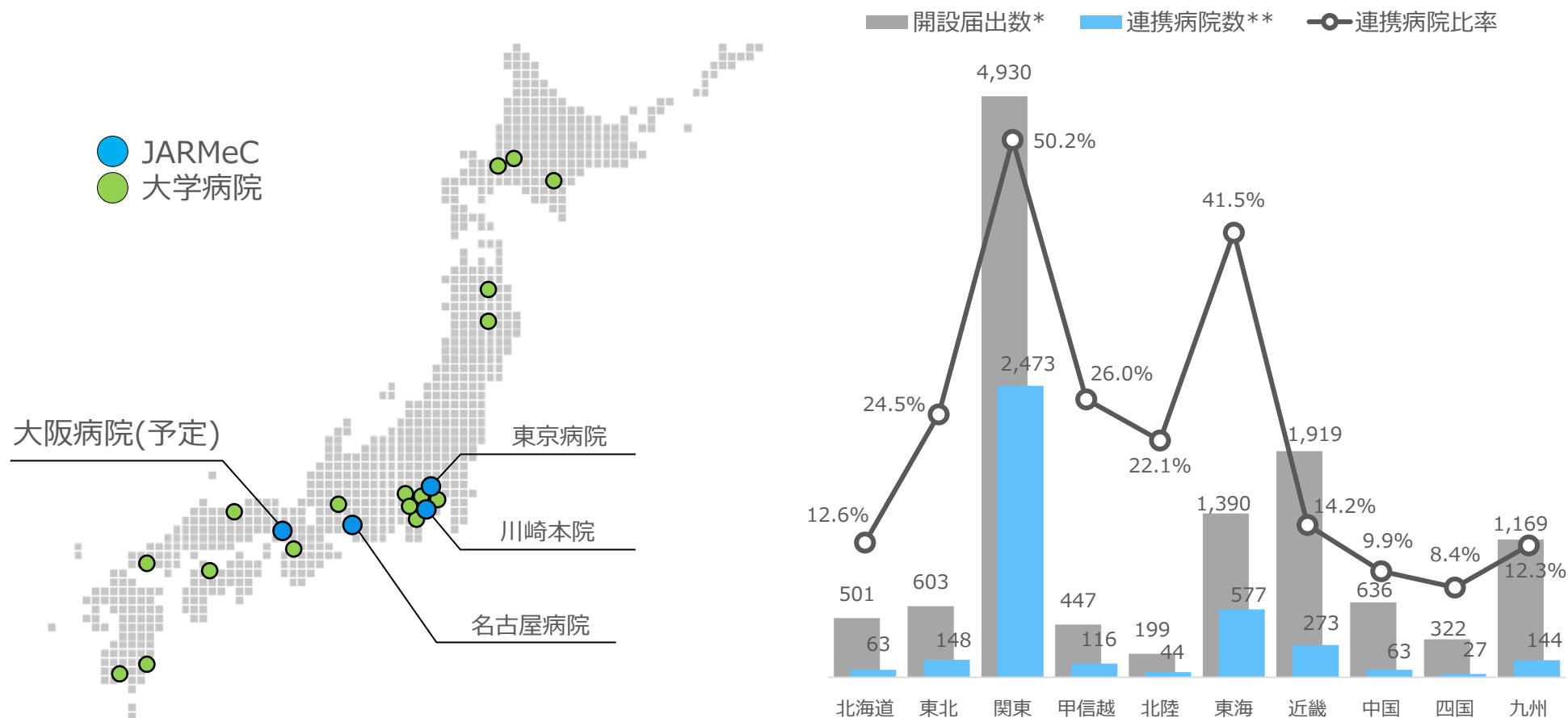
*約100年のペット保険の歴史があるスウェーデンでは加入率50%、約70年の歴史があるイギリスでは25%程度の加入率
**犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

出所：富士経済「2021ペット関連市場マーケティング総覧」
矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

拠点の拡大

- 大阪病院(仮称)は、建設計画の見直しに伴う設計変更及び箕面市との条例再協議・許可取得等に6ヶ月程度の期間を要するため、2021年11月着工、2022年11月開院へ日程を変更
- 全国主要都市に施設の展開を積極的に推進中。

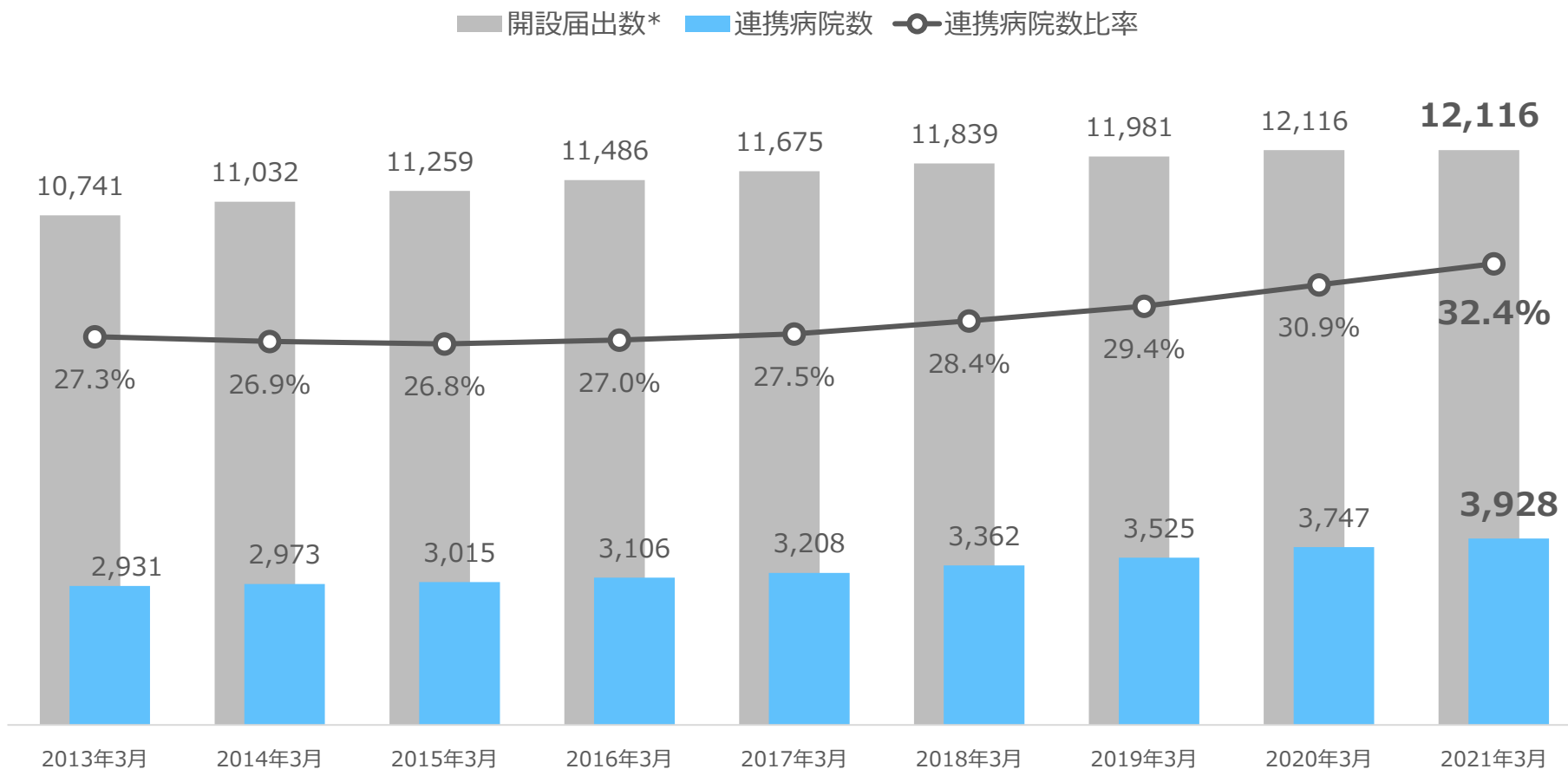


*開設届出数は農林水産省（2019年12月末時点の小動物診療施設の件数）

**連携病院数は2021年3月末時点の件数

連携病院数の拡大

- 連携病院数は、開設届出数を上回る勢いで年々着実に増加。
- 2021年3月時点で全国3,928施設と連携し、連携病院数比率は32.4%を達成。



*開設届出数は農林水産省（2019年12月末時点の小動物診療施設の軒数）

- 拠点拡大の一環として、診療を行う獣医師や動物看護師などの増員を図る計画
- 優秀な人材確保に向けて、積極的な採用活動を実施

人材確保

- ◆ 優秀な人材の確保
 - 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
 - 採用活動を積極的に実施
- ◆ 従業員の育成
 - 獣医師、動物看護師へOJTの実施
 - 外部セミナーの活用

役割の拡大

- ◆ 動物看護師の国家資格化※
 - 動物看護師の国家資格化による役割の拡大、獣医師の負担軽減
 - ➡ 業務の効率化・生産性の向上

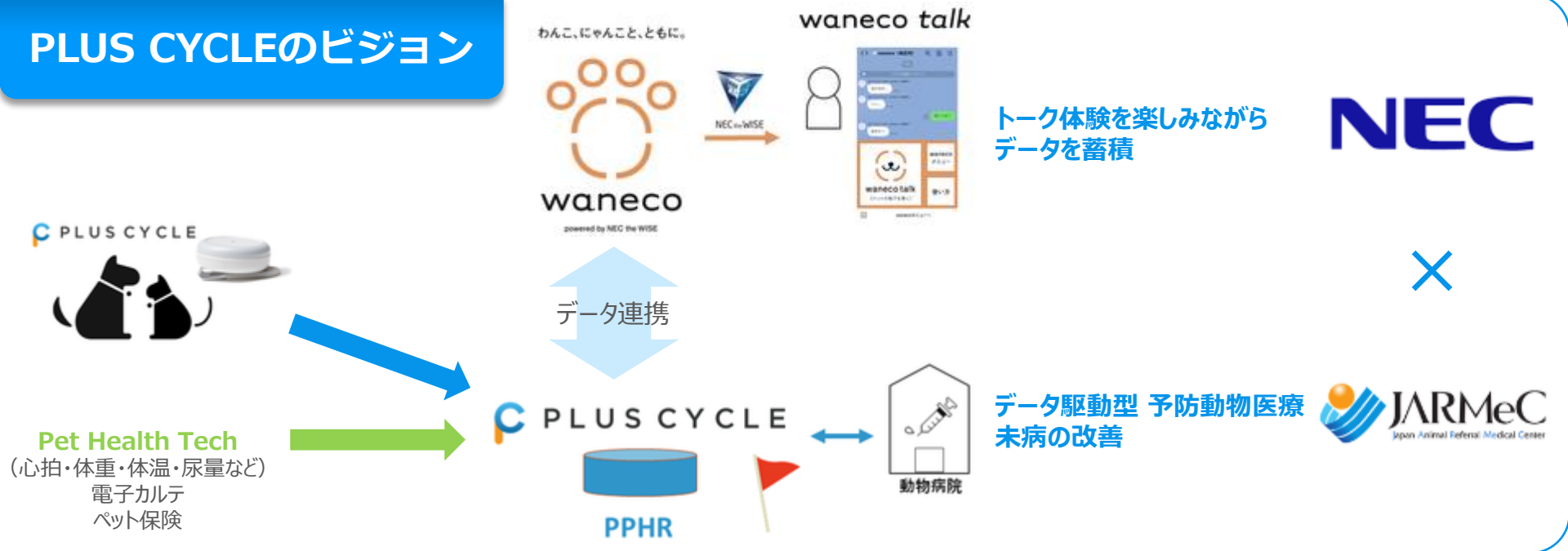
※第1回 愛玩動物看護師国家試験の実施時期は未定だが、遅くとも2023年12月末までには実施の見込み（農林水産省）

プラスサイクルを使用した他社との連携

- 活動量計「プラスサイクル」と愛玩動物コミュニケーションプラットフォームサービス「waneco」との連携により、NECがペットとLINE上でトークができるサービス「waneco talk」の社内実証を開始
- 将来的には、様々なPet Health Techから得られる生態データや電子カルテ/ペット保険から得られる診療/疾患データを集積するPPHR*を構築

*Pet Personal Health Record
PHR：病院や薬局ごとに保存・保管している個人の医療データ

PLUS CYCLEのビジョン



各犬猫のデータに基づいたデータ駆動型 予防動物医療の実現を目指す

appendix



- 動物病院は「社会生活を維持する上で必要な施設」に分類され、事業の継続を要請されている。

- ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組み

- 従業員全員に手洗い・手指消毒・マスク着用を義務付け
- 病院施設内のドアノブ、ボタン類の定期的な消毒
- 室内の換気、空気清浄機の運転等による環境除菌
- ご来院の方への立入り制限の実施、手洗い・手指消毒・マスク着用の奨励

当社グループは、従業員とその家族、来院する飼い主の安全確保、感染拡大防止に最優先に取り組んでいく所存

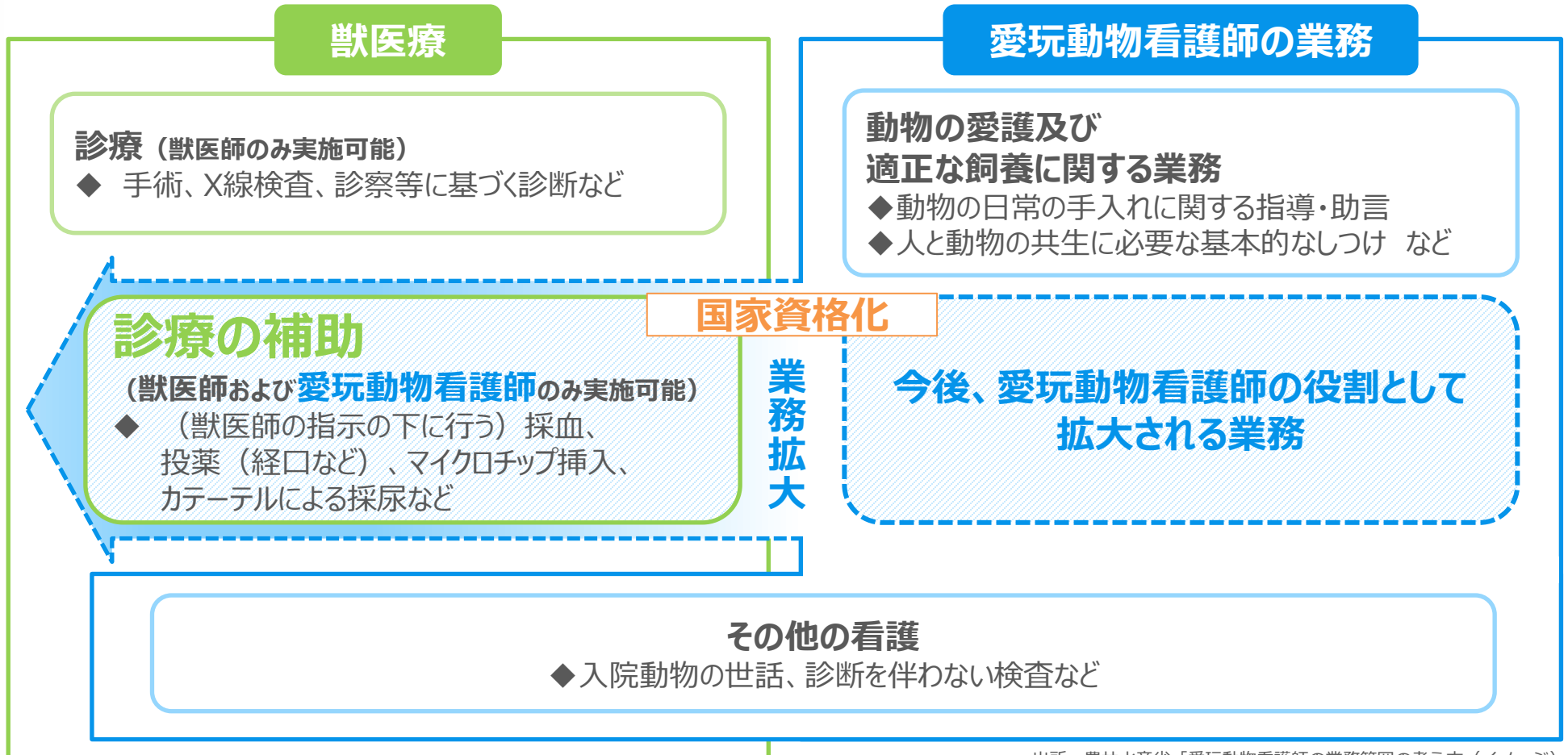
- ◆ 新型コロナウイルスによる将来的な影響

- 経済的理由から動物医療に対する支出減少への懸念
- 自粛ムードの高まりによる、遠方からの来院自粛への懸念

愛玩動物看護師の国家資格化による業務の効率化

- 2019年6月の愛玩動物*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される。


*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他法令で定める動物




出所：農林水産省「愛玩動物看護師の業務範囲の考え方 (イメージ)」

※第1回 愛玩動物看護師国家試験の実施時期は未定だが、遅くとも2023年12月末までには実施の見込み (農林水産省)

会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻巣 1-604 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 大阪病院 : 2022年11月に開院予定
設立年月日	2005年9月26日
資本金	385百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	230名（非常勤18名を含む）※グループ全体（2021年4月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック（高度医療機器を用いた動物の画像診断センター）

- 
- 2005年9月 ○ 株式会社日本動物高度医療センターを設立
 - 2007年6月 ○ 川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業
 - 2009年3月 ○ 「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける
 - 2011年12月 ○ 名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業
 - 2014年1月 ○ 株式会社キャミックを子会社化
 - 2015年3月 ○ 東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）
 - 2017年6月 ○ キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業
 - 2018年1月 ○ 東京病院を東京都足立区に開業

病院の区分		獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	年中無休	土日祝・夏季・年末年始休業	365日営業が難しい
診療科数	12	10~19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育・研究に重点 急患対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

JARMeCが提供する高品質なサービス

高度医療機器

獣医科大学病院と同等あるいは以上の設備を揃える

柔軟な受入対応

年中無休、予約の速さ（原則当日または翌日の受入を目指す）、
簡便さ（紹介医の電話による受入が可能）は好評

チームによる診療体制

専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。
必要に応じて複数の診療科が協力して対応

＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター

石川 隆行

044-850-1320

e-mail : takayuki.ishikawa@jarmec.jp